

平成 29 年度 四国地区公開研修会 開催報告書

報告者 聖カタリナ大学 村岡則子

1. 実施日時 平成 30 年 2 月 17 日(土) 13:00~16:00
2. 場 所 聖カタリナ大学 2 号館 2 階 224 教室 (愛媛県松山市北条 660)
3. 実施概要

本研修会テーマは、「福祉現場のやる気を引き出す取り組みとは一経営と現場の一体化を目指す福祉心理学的アプローチ」として、働きやすい職場環境づくりとは何か、働きがいのある仕事とは何か、先駆的な施設の取り組み事例を踏まえながら、経営・管理者、現任者、そして福祉学生それぞれの立場から福祉心理学の理論を基にこれからの福祉現場を考える機会としました。参加者は、愛媛県内のみならず、徳島県など遠方からの参加者もあり、30 名定員のところ、総数 47 名の方々からご参加いただきました。

基調講演では、特別養護老人ホーム壱岐のこころ施設長や日本総合研究所の講師などマネジメント分野にて幅広くご活躍されている鬼塚裕司氏をお迎えし「福祉の未来を創るマネジメント」という演題にてご講演いただきました。そこでは、施設経営の現状と課題、福祉領域でのマネジメント理論の応用と実践、そして職場のメンタルヘルス対策などにも触れ職員の働く環境とケアの質との関連についてご教示いただきました。

次に座談会では、施設管理者の立場から杉本太一氏(高齢者総合福祉施設梅本の里)、現任者の立場から西岡真由美氏(特別養護老人ホームひろた)、福祉学生の代表として松田恵里氏(聖カタリナ大学 4 年)にご登壇いただきました。くわえて、福祉心理士の立場から占部尊士氏(西九州大学短期大学部)の解説をまじえて“福祉現場のあり方を福祉心理学的アプローチから”捉えなおすことで、福祉労働の環境整備に応用できる新たな知見を得ることができました。また、会場からは現場職員より「現場からの体験談と福祉心理学の学問の視点を重ねて捉えることで、新しい気づきがありました」や福祉学生より「福祉心理学の視点は、自分が働く上で援助活動に役立つ大切な視点だと思いました」などのコメントがあり、講師陣との活発な意見交換がなされました。今後は、本研修会から得られた知見や示唆を通して、福祉労働における福祉心理学の社会的有用性について考察を深めつつ、実践的研究の進展に努めてまいりたいと考えております。

最後になりましたが、この場をお借りして、ご参加いただきました皆さま、ならびにご講演いただきました講師の方々、関係者の皆さまに厚く御礼申し上げます。

